

▷降雪期の農作業時の安全確保

これから降雪期となります。果樹の枝折れ、雨よけ施設などの破損・倒壊を防ぐため、雪害対策を徹底しましょう。

また、降雪後に施設の点検や除雪作業を行う際は、施設の倒壊の恐れがないか、作業する足元に危険はないか、落雪の恐れはないか、十分に安全確認をした上で行いましょう。

📍冬期農作業事故防止のポイント

- 雨よけ施設や作業小屋の雪下ろしを行う場合は、滑りにくい長靴、ヘルメットや命綱を着用する。
- 除雪機は、周囲の障害物や人の位置を十分確認したうえで慎重に操作し、雪が詰まるなどのトラブルが発生した場合は、必ずエンジンを止めてから対処する。
- 脚立はチェーンをかけて使用し、最上段には登らない。
- 作業はなるべく複数人で行い、互いに安全を確認しあう。

▷土壌診断を活用した土づくり

作物を正常に生育させるためには、土壌中の養分状態を作物の要求する量に調節するとともに、他の成分とのバランスをとらなければなりません。現状の土壌状態を正確に把握するには土壌診断が必要です。土壌診断に基づき適正な施肥を行う事で、作物の収量の安定、施肥コストの低減に繋がります。

・ pH と EC 値による簡易診断

土壌診断では通常、pH、EC（電気伝導度）、りん酸、塩基飽和度（カリウム・苦土・石灰の割合）などを分析しますが、pH と EC 値を測定するだけでも、土壌の状態を推定することが出来ます。（この方法はハウス栽培土壌を中心とした方法であり、養分の低い水田土壌などについては、化学分析が必要です。）

■ pH、ECから想定した土壌の状態と施肥方法

状態	pH	EC (mS/cm)	主な原因・症状	対処方法
高pH 高EC	7以上	1.5以上	<ul style="list-style-type: none"> ●窒素、塩基成分いずれも過剰に蓄積している可能性がある。 ●葉は濃緑色、草丈が伸びず、花落ち、着果不良などの症状が現れることがある。 	無肥料栽培など施肥量を大幅に削減した施肥を行う。
高pH 低EC	7以上	0.5以下	<ul style="list-style-type: none"> ●塩基成分が多いものの、窒素成分が少ない。 ●地上部生育は悪く、微量元素欠乏症などが発現している場合がある。 	窒素肥料を基準量施用する。栽培途中であれば、追肥する。
低pH 高EC	5.5以下	1.5以上	<ul style="list-style-type: none"> ●石灰などの塩基成分の不足ではなく、硝酸や硫酸など陰イオンの蓄積によるpH低下の可能性はある。 ●生育は地上、地下部とも悪い。 	窒素肥料の施肥を避ける。
低pH 低EC	5.5以下	0.5以下	<ul style="list-style-type: none"> ●窒素、塩基成分がいずれも不足している可能性がある。 ●葉色は淡く、生育は悪い。 	石灰質肥料を施用してpHを上げ、窒素は基準量を施用する。
適正	5.5～7.0	0.5～1.0	—	—

・ pH について

pHは1～14の値で示される数値で、pH7を中性、7から小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性となります。

作物によって適正值は異なりますが、一般的な適正值は6.5程度で、6.0を下回ると酸性と呼ばれます。また、6.5～7.0以上になると作物の生育に必要な微量元素が土壌中で溶解しにくくなり、欠乏することがあります。

・ EC（電気伝導度）について

ECは土壌中の塩類濃度の目安となり、高いほど養分量が多いこととなります。ハウス栽培では雨で養分が流されることがないため、ECが高くなる傾向にあります。肥料養分濃度が高くなると、根が水分を吸収できなくなるなど塩類濃度障害（肥やけ）を起こすことがあります。同じ肥料養分濃度でも、作物や栽培方法によって濃度障害の程度は異なります。

J A てんどうでは、土壌診断を随時受け付けております。土壌診断を希望される方は、最寄りの支所へご相談ください。